

普及活動情勢報告（令和元年6月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

現場でのGAP点検ポイントを学ぶ ～JA土佐くろしおGAP点検の実施～



GAP点検の様子

6月11日、JA土佐くろしお営農指導課と環境農業推進課、農業改良普及課は、JA園芸部会員の作業場で、GAP点検の実地研修を開催しました（参加20人）。

参加者からは、「何からどうやって点検に入ったらよいのか」との質問があり、アドバイザーからは、点検時の生産者とのコミュニケーションが大事であること、できていないことがあっても「ダメですよ」とは言わないで、「どうするんですか」と問いかけることが次につながることに、生産者がどう改善するのか自ら考えてもらうのがポイントになること、などの助言を受けることができました。

農業改良普及課は、アドバイスを参考にして関係機関とともに現場でのGAP点検活動を行い農産物事故ゼロを目指し支援していきます。

7回目の田植え ～高知県立大学 COME☆RISH × おおのみエコロジーファーマーズ～



手植え奮闘中

6月2日、高知県立大学の学生グループであるCOME☆RISHが大野見米の田植えを実施しました。時おり、小雨が降る天候の中、おおのみエコロジーファーマーズのメンバーと一緒に、機械を用いた田植えや手植えなど、水稻の田植えに関係する作業を体験しました。

農業改良普及課からは、田植え体験の後、イネ・お米に関する情報提供を行い、イネの栽培管理や品質などについての理解を深めてもらいました。

今後も、農業改良普及課は、おおのみエコロジーファーマーズ及びCOME☆RISHのより良い活動になるように支援を行っていきます。

「今なぜGAPなのか」の基礎から学びました ～須崎地区GAP研修会の開催～



須崎地区GAP研修会の様子

6月11日、須崎市立市民文化会館大会議室において、須崎地区GAP研修会を開催しました（参加80人）。

環境農業推進課から『高知県でのGAPの取組』について説明、JA土佐くろしおから取組状況報告、その後、JGAP上級審査員を講師に迎え、「GAP」に取り組むために知っておきたい「GAP」の基礎についてご講演いただきました。内容は、「GAP」誕生の背景や事故を起こさない農場に近づくための「GAP」という道具（手段）の使い方などで、生産者も44人の出席があり、取り組みへの意識向上が感じられました。

農業改良普及課は、今後も関係機関とともにGAPの取り組みを支援していきます。

自分たちの集落の未来を考えるキッカケに！ ～ 津野町集落営農塾（組織化編）を開催 ～



集落営農塾の様子

農業改良普及課では、農地の荒廃や農業の担い手（後継者）不足など、集落の抱える課題の解決に向け、集落営農の組織化を推進しています。

6月4日・5日、津野町の中山間地域等直接支払に取り組む集落協定の代表者等を対象に、集落営農塾（組織化編）を開催しました。

集落営農塾では、農業センサスなどによる地域の状況を振り返り、自分たちの集落のことを話し合うところからスタートしていくことや県が作成したDVDで集落営農組織の事例紹介をしました。

農業改良普及課は、今回の集落営農塾（組織化編）を契機として、津野町担当者と連携していきます。

国際水準 GAP への取組み ～ 環境直払国際水準 GAP 講習会 ～



講習会の様子

5月26日、6月10日にJA高知県津野山Cで梶原町、津野町の環境直払交付金を希望する生産者40名を対象に国際水準GAP講習会を実施しました。

講習会の前半は「良い農場」を目指すためのGAPについて学んでいただきました。また、後半は生産者が食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理の5分野について、各2点の改善目標を設定し、今後達成に向けて取り組むことを決定しました。

農業改良普及課は、今後もユズの有機栽培を通じて、農業生産の改善に取り組む生産者を支援していきます。

収量アップのため収穫初期の栽培管理を確認 ～ 雨除けシシトウ現地検討会を開催～



現地で講習中

5月31日、JA土佐くろしお営農指導課が雨除けシシトウ現地検討会を2カ所（葉山、久礼）で開催し、合計20人が参加しました。

JAは収穫始めから収穫中期にかけての主枝や側枝の整枝・誘引方法、追肥管理について、農業改良普及課は今後の灌水管理や病害虫対策、果実の品質低下対策について、説明しました。

参加者からは、灌水や追肥管理の仕方、摘心や側枝の方法などについての質問がありました。

現地検討会を適期に行ったことで活発な質問が出るなど、栽培に対しての意識を高めることができました。

農業改良普及課は、今後もJA等と連携してシシトウの収量アップに向けて支援を行います。

これから収穫開始、栽培管理を周知・徹底 ～露地シントウ現地検討会を開催～



普及指導員が講習中

6月12日、J A土佐くろしお営農指導課が露地シントウ現地検討会（葉山・須崎（大谷））を開催し、合計55人が参加しました。

J Aは収穫始めからの主枝や側枝の整枝・誘引方法、追肥管理について、農業改良普及課はこれからの灌水管理や病虫害対策、果実の品質低下原因とその対策について、説明しました。

参加者からは、灌水管理の仕方、摘心や側枝の誘引方法、病虫害防除などについての質問がありました。

現地検討会を適期に行ったことで活発な質問や意見が出るなど、栽培に対しての意識を高めることができました。

農業改良普及課は、今後もJ A等と連携してシントウの収量アップに向けて支援を行います。

梶原町でワイン事業始まる ～井上ワイナリー・井上石灰と三者連携協定を締結～



調印締結

6月3日、梶原町、井上石灰、井上ワイナリーの三者でワイン造りに関する包括的連携協定が締結されました。その後、梶原町の関係者ら26名で、ワイン品種の選定会を行い、梶原町の豊富な食材（牛、ジビエなど）を使った料理との相性を感じながら選定を進めました。

6月4日は、井上石灰の井上社長からワイン事業の取組などについての講演をいただき、参加者はとても興味深く、熱心に聞き入っていました。今後、栽培品種を決定し、本格的にワイン事業が始まることとなります。

農業改良普及課は、品種の情報収集や視察など、関係者の要望に応じていながら、ワイン事業の取り組みを支援していきます。

関係者の意見を踏まえた普及活動に取り組むために ～第1回普及推進協議会の開催～



推進協議会の様子

5月31日、須崎管内の市町、J A、生産者代表の方等にお集まりいただき、第1回普及推進協議会を開催しました。

まず、産業振興計画、本年度の普及指導計画及び地域農業振興計画等の説明と質疑応答を行いました。

次に、3～5年先を見据えた施策等をテーマとして、担い手対策、地域の農地を守る仕組みや労力軽減策、環境制御、鳥獣害対策など多岐にわたる意見をいただき、今後の施策を考える課題等を明らかにすることができました。

農業改良普及課では委員から出された意見を今後の普及活動等に反映させ、地域や農業の課題解決に取り組めます。